

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	千葉県	学校名	流山市立流山小学校		
人権課題	高齢者	対象学年・ 取り扱った教科等	小学1年・生活科	時数等	9時間
目標・人権教育のねらい	・お年寄りや地域の方から昔遊びを教わったり、一緒に遊んだりする活動を通して、遊びに対して自分の思いや願いを持ち、それを達成するために、地域の方に尋ねたり、友達とアドバイスをし合ったりしながら、考えたり工夫したりすることができ、地域の方に親しみを持ち、自分の成長を感じながら意欲的に生活しようとする。				
実施した内容	・昔遊びを体験して、楽しさや難しさに気が付く（1時間） ・昔遊び名人になるための方法を考える（1時間） ・昔遊びの会の準備をする（高齢者との交流時の注意点を考える）（1時間） ・昔遊びの会の実施する（2時間） ・友達と交流して昔遊びの上達を目指す。（2時間） ・昔遊び発表会をする（1時間） ・振り返りをする（地域の方へのお礼の手紙を書く）（1時間）				
工夫した点	（指導上の工夫） ・児童の「知りたい」を学習のスタートにし、児童の主体的な学びを促した。 ・ペアトークやグループの話し合い活動を多く取り入れ、児童の学び合いを促した。 ・学び合いでは、向かい合って話すことや、相づちを打つことなど、肯定的に他者の意見を受け入れる素地を養えるよう指導した。 （地域や関係機関との連携） ・運動会「ふれあい玉入れ」シニアと児童の集いなどを想起させ、自分たちの身近な地域にサポーターがいることに気づかせた。 ・地域の高齢者を講師として迎えることをきっかけに、高齢者との交流を楽しむために気を付けないといけないことについて考えさせた。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

・国語科「ころぽかぽかてがみをかこう」の学習に関連させ、地域の方へのお礼状の書き方を学んだ。生活科の「ふゆとあそぼう」の単元内の「昔遊び」を軸に高齢者との交流の場をもった。

事業成果

知識的側面：「あなたは、いくつかの人権問題がどのようなものか知っていますか。」

「知っている」 事業開始時 : 42 % ⇒ 事業終了間際 : 61 %

【児童変容の分析】

人権タイムで動画を見るなど、人権について考える機会を経て人権についての理解が進んだ。

・価値・態度的側面：「あなたは、自分の気持ちを大切にしていますか。」

「大切にしている」 事業開始時 : 92 % ⇒ 事業終了間際 : 96 %

【児童変容の分析】

人権タイム等で、自分も他人も大切にしていけることを学んだことや、道徳等で友達の良いところを伝え合う活動や各教科でのペアワーク等学び合い活動を通して、自分の気持ちを表現することのうれしさや、楽しさを感じていった。

・技能的側面：「あなたは、困っている人がいたとき、何かしてあげられますか。」

「できる」 事業開始時 : 89 % ⇒ 事業終了間際 : 94 %

【児童変容の分析】

運動会や児童とシニアの集い、昔遊びの会と高齢者と接する機会を重ねるたびに、高齢者が身近に感じるようになっていった。様々な活動をする中で、児童同士の交流が生まれ、助け合う場面が増えていった。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	千葉県	学校名	流山市立流山小学校	
人権課題	高齢者	対象学年・ 取り扱った教科等	小学2年・生活科	時数等 13時間
目標・人権教育のねらい	・地域の方をもてなす体験を通して、地域の様子やそこで生活したり働いたりしている人々について考え、自分たちの生活は様々な人や場所とかがわっていることが分かり、それらに親しみや愛着を持ち適切に接したり安全に生活したりしようとする。 ・自分たちの生活や地域の出来事を人々と伝えあう活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かり、進んで触れ合い交流しようとする。			
実施した内容	・春の町はっけんの経験から、自分たちの住んでいる地域にどんな店や施設があるか考えいろいろな人が働いていることを知る。（2時間） ・お世話になっている地域の人に感謝を伝えるための計画を立てる。（3時間） ・地域の店や施設を探検する計画を立てる。（2時間） ・地域の人を招待しておもてなしをする。（1時間） ・地域の店や施設を探検する。（2時間） ・地域の人をもてなした経験を振り返る。（1時間） ・町たんけんを振り返る。（1時間） ・単元全体を通して分かったことを振り返る。（1時間）			
工夫した点	（指導上の工夫） ・授業の流れが分かるように、黒板の左端に学習内容を記載する。 ・参加者が喜んでいたという事実について写真や映像を通して実感させる。（価値・態度） ・高齢者への配慮（ゆっくり歩く、大きな声で話すなど）について自分が気を付けたことなどを通して考えさせる。（技能） （地域や関係機関との連携） ・児童とシニアの集いで地域の高齢者の方と実際に交流した。 ・町たんけんで地域の方に質問したり、仕事を体験させていただいたりした。			

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

・国語科にて、地域の方へのお礼の手紙を書く学習を行った。・図画工作科にて、地域の方へのプレゼントやシニアの集いの装飾などを作成した。・道徳科にて、自分が地域のためにできることについて生活科の探検やシニアの集いを想起させながら学習した。

事業成果

- ・知識的側面：「あなたは、いくつかの人権問題がどのようなものか、知っていますか。」
「知っている」 事業開始時 : 37 %⇒事業終了間際: 57 %
【児童変容の分析】
人権タイムで動画を見るなど、日頃から人権について意識したことによって、人権問題への意識が高まったと考えられる。
- ・価値・態度的側面：「あなたは、自分の気持ちを大切にしていますか。」
「大切にしている」 事業開始時 : 93 %⇒事業終了間際: 95 %
【児童変容の分析】
人権タイムで自分も友達同様に大切な存在なのだと改めて学んだことで、自分を大切に思う気持ちが少しはぐくまれたと考えられる。
- ・技能的側面：「あなたは、困っている人がいたとき、何かしてあげられますか。」
「できる」 事業開始時 : 88 %⇒事業終了間際: 96 %
【児童変容の分析】
シニアと児童の集いで高齢者を案内したり、町たんけんで班のメンバーと協力したことの経験を通して、困っている人を助けるという意識が高まったと考えられる。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	千葉県	学校名	流山市立流山小学校
人権課題	外国人	対象学年・ 取り扱った教科等	小学3年・総合的な 学習の時間
		時数等	20時間
目標・人権教育のねらい	「人権問題」の中から諸外国の文化や生活習慣などを、ゲストティーチャーによる出前授業やインターネット、本を活用して調べる活動や自分自身を振り返ってレーダーチャートに表す活動を通して、多様性と違いを知り、それぞれの文化の中で生活していることを理解し、受け入れられる素地を養う。そこから違うことは当たり前であり、外国に限ったことではなく身近にいて一緒に生活をしている友達同士でも相互理解の大切さに気づき、互いに尊重し合うことができるようにする。		
実施した内容	・人権擁護委員、ゲストティーチャーを招き、人権があること、外国と日本との相違点を知り、異文化への興味関心を持たせる。(2時間) ・諸外国の生活や文化等について比べ、情報収集をしながら自分でテーマを決めてICTを活用しまとめ、友達に知らせる。(11時間) ・国際理解交流会でゲストティーチャーから学び、質問を通して、受け身ではなく相互の関係を築く楽しさを学ぶ。(2時間) ・ALTや外国籍の保護者へのインタビューを通して、外国から見た日本や困っていることを知り、外国の人々との関わり方を考える。(1時間) ・外国の文化等で得た知識や異文化を受け入れる素地を基に、自分の持つ特徴や個性について、レーダーチャートを用いて分析・表現する。異なる力があるからこそ補完し合える関係であること、自分や友達のよさや困ったときに助け合えるHEROに誰でもなれることに気づく。(4時間)		
工夫した点	(指導上の工夫) ・国際理解教育やALTなど身近な外国の方のインタビューから、在日の外国人が抱える問題があることを知り、相違点があることが当たり前という共感的に理解する。(知識) ・ゲストティーチャーの出前授業をきっかけに、諸外国の文化や生活習慣の多様性を受容したり、違いを認めたりする態度を養う。(価値・態度) ・外国だけでなく身近にいる友達でも相互理解する大切さに気づき、互いに高め合っていけるような関係性を築く。(技能) (地域や関係機関との連携) ・ゲストティーチャーによる出前授業や国際理解教育の体験活動から、外国の文化の多様性を理解し、外国の人々の生活習慣やものの考え方、文化の違いがあることに気づき、違いを認め合いながら、広い視野をもち、相互理解ができる素地を養った。		

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

- ・国語科「くらしと絵文字」では外国の人にもわかるようなユニバーサルデザインの絵文字を考えた。
- ・道徳科「三つの国」「じゃがいものうた」では個性の尊重、多様性を認める考え方について学級で話し合った。

事業成果

- ・知識的側面：「あなたは、いくつかの人権問題がどのようなものか知っていますか。」
「知っている」 事業開始時 : 49 %⇒事業終了間際: 53 %

【児童変容の分析】

外国の文化に触れたことで、日本との相違点を知り、身近な外国籍の方々から話を聴くことで外国の方々が困っていることを実感を伴って理解できた児童が増えた。しかし、その他の人権課題には触れる機会も少なかったため、まだ知識面での理解が乏しい。発達段階を踏まえ、段階的に学習していく必要がある。

- ・価値・態度的側面：「あなたは、自分の気持ちを大切にしていますか。」
「大切にしている」 事業開始時 : 95 %⇒事業終了間際: 94 %

【児童変容の分析】

「とてもそう思う」の割合は57%から63%で増えている。「そう思う」の割合が38%から31%へ減ってしまっている。個人の捉え方の差もあり、自己肯定感の差が結果として現れた。成長段階で、自分の気持ちよりも友達に譲る等の思いからこのような結果になったとも考えられるが、9割以上の児童が自分を大切にしていることが分かる。

- ・技能的側面：「あなたは、困っている人がいたとき、何かしてあげられますか。」
「できる」 事業開始時 : 94 %⇒事業終了間際: 95 %

【児童変容の分析】

レーダーチャートで自己理解、他者理解を視覚的に分析したことで、自分は誰かを助けられる、互いに補い合えるという実感と、そこから自信へとつながったと考えられる。誰かのためになりたいという漠然とした思いが、具体的に形となって行動すべきことが分かったという成果ともいえる。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	千葉県	学校名	流山市立流山小学校
人権課題	障害者	対象学年・ 取り扱った教科等	小学4年・総合的な 学習の時間
		時数等	18時間
目標・人権教育のねらい	・多くの体験学習を通して、障がいや障がい者問題について正しく理解し、自分なりの課題意識を持って学習を進めることができる。 ・多くの体験学習を通して、障がいのある人が住みよい条件は、誰にとってもよい条件であることに気付くことができる。 ・多くの体験学習を通して、自分たちができることを考え実践しようとするすることができる。 ・多くの体験学習を通し、一人ひとりの違いを認め、共に生きていくことの大切さに気付き、人権意識に支えられた実践を進んで行うことができる。		
実施した内容	・校外学習での職業体験を通し、様々な仕事をしている人がいることを知り、その意義を考える。（7時間） ・車いす体験を通して障がいについて知り、障がいがあるということの理解を深める。（5時間） ・白杖体験を通して障がいのある人の立場や状況を踏まえて自分にできることを考える。（3時間） ・体験して考えたことから、自分のできることを実践して、全体で共有する。（3時間）		
工夫した点	（指導上の工夫） ・障がいのある人の困り感に気づきやすいよう、前時の写真で振り返る。（知識） ・どんな困り感の種類があるか視覚的に分かるよう、仲間分けするよう促す。（価値・態度） ・次時の内容につなげられるよう、気づいた困り感から、それを小さくするためにある工夫や自分にできることを考えさせる。（価値・態度） （地域や関係機関との連携） ・あすチャレ！スクールに参加し、車いすバスケの体験を通してパラスポーツへの理解を深め、チャレンジしていくことの大切さを講話いただいた。		

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

- ・道徳科「点字メニューにちょうせん」と社会科で点字について学習した。総合的な学習の時間との繋がりを意識し、障がいを持つ人がより生活しやすくなるために多くの人が尽力していることを指導した。

事業成果

- ・知識的側面：「あなたは、いくつかの人権問題がどのようなものか知っていますか。」
「知っている」 事業開始時 : 47%⇒事業終了間際: 69%
【児童変容の分析】
多くの体験を通し、障がいを持つ人の困り感を実感することができた。
- ・価値・態度的側面：「あなたは、自分の気持ちを大切にしていますか。」
「大切にしている」 事業開始時 : 92%⇒事業終了間際: 92%
【児童変容の分析】
友達の行動で、嫌なことがあった場合、担任に報告することができる児童が増えた。
- ・技能的側面：「あなたは、困っている人がいたとき、何かしてあげられますか。」
「できる」 事業開始時 : 92%⇒事業終了間際: 92%
【児童変容の分析】
総合的な学習の時間や道徳科の時間で積極的に行動していきたいという児童が増えた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	千葉県	学校名	流山市立流山小学校		
人権課題	子ども	対象学年・ 取り扱った教科等	小学5年・総合的な 学習の時間	時数等	20時間
目標・人権教育のねらい	・「人権問題」の中から「いじめ問題」について深く知り、いじめ問題について調べたり、流山小学校の全校児童に伝えるために動画を作成する活動を通して、自分の身近にも人権問題が存在していることを理解し、それらをなくすためにできることがあるか積極的に考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。				
実施した内容	・千葉県でのいじめや不登校の件数について知る。（2時間） ・いじめの原因や構造、いじめが人権にどのように関係しているのかの理解を深める。（2時間） ・いじめのない学校づくりについて考え、全校児童に伝えるための動画を作成・共有する。（8時間） ・いじめ問題から他の「子どもの人権問題」に考えを広げ、調べたことや自分たちにできそうなことを共有する。（8時間）				
工夫した点	（指導上の工夫） 話し合いのルールを確認し、お互いの意見を聞き合う雰囲気をつくる。 たくさんの活動を入れ、人権に対して興味をもてるようにする。 （地域や関係機関との連携） ・流山市教育委員会指導課の先生とスクールロイヤーの先生を招き、いじめ防止教育を行った。いじめの定義が法律上ではどのようなになっているかを知り、様々な事例から、いじめはしてはいけないという意識を高めた。 ・子どもと親のサポートセンターから講師を招き、千葉県でのいじめや不登校の実態について知り、いじめや不登校に対する考えを深め、いじめをなくそうとする意識を高める。 ・ユニセフから講師を招き、子どもの権利条約について話を聞いた。いじめはもちろん身近な人権問題であり、子どもには他にも様々な人権があり、守らなければいけないことを学んだ。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

社会科の「世界の中の日本」において、ユニセフの世界の子どもたちと繋がるように学習に取り組んだ。国語科の「ひみつを調べて発表しよう」では、ユニセフの「子どもの権利条約」について調べ、発表した。

事業成果

- ・ 知識的側面：「あなたは、いくつかの人権問題がどのようなものか知っていますか。」
「知っている」 事業開始時 : 43 % ⇒ 事業終了間際 : 65 %
【児童変容の分析】人権問題について、自分たちが学習している「いじめ」も人権だということがゲストティーチャーからの話や人権タイムの話から改めて知ることができた。ユニセフの子どもの権利条約からも様々な事例があるので知ることができた。人権という言葉自体は難しいが、意外にも自分たちの身近にある問題だということを感じることができたと考えられる。
- ・ 価値・態度的側面：「あなたは、自分の気持ちを大切にしていますか。」
「大切にしている」 事業開始時 : 92 % ⇒ 事業終了間際 : 87 %
【児童変容の分析】アンケートの結果では、下がってしまったが、総合の単元名を決める際にも子どもたちから「十人十色ーみんなちがってみんないー」という名前が出された。自分を大切にすることが友達も大切にすることになると実感することができたからだと考えられる。
- ・ 技能的側面：「あなたは、困っている人がいたとき、何かしてあげられますか。」
「できる」 事業開始時 : 91 % ⇒ 事業終了間際 : 89 %
【児童変容の分析】アンケートの結果では、下がってしまったが、就学時健診では、初めて学校に来た子たちに優しく接するなど行動に変容が見られた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	千葉県	学校名	流山市立流山小学校		
人権課題	性的指向、性自認	対象学年・ 取り扱った教科等	小学6年・総合的な 学習の時間	時数等	15時間
目標・人権教育のねらい	ジェンダー教育に関する講演会の参加や映像資料を視聴し、話し合いの活動を通して、様々な人権問題を理解するとともに偏見や差別の不合理性に気づき、自分の大切さとともに他人の大切さを守ろうとする行動について考え、お互いの個性を認め合ったり他者を思いやったりすることができるようにする。				
実施した内容	- 性にはどんな種類があるか知る（2時間） 「男らしさ」「女らしさ」について考える（4時間） - ゲストティーチャーの講話から性自認について考える（3時間） - 性別で分けてきたものをこれからどのように分ければよいか考える（2時間） - 学んだことをみんなに知らせる（4時間）				
工夫した点	（指導上の工夫） - 話し合いのルールを確認し、お互いの意見を聞き合う雰囲気をつくる。 （地域や関係機関との連携） - 男性から女性に性転換したタレントの西原さつきさんを招き、「自分らしく生きる」をテーマに講演会を行った。西原さんの体験談を聞きながら、社会にはいろいろな思いを抱えている人がいることを知るとともに、自分の生き方について考えることができた。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	千葉県		学校名	流山市立流山小学校	
人権課題	同和問題	対象学年・ 取り扱った教科等	小学6年・総合的な 学習の時間	時数等	1 時間
目標・人権教育のねらい	・ 部落差別を正しく理解し、差別をなくしていこうとする態度を育てる。				
実施した内容	・ 部落差別の歴史や差別を受けた人々の思いを知る（1時間）				
工夫した点	（指導上の工夫） ・ 差別を受けた人々の気持ちを考え、差別をしないという思いにつなげられるようにする。 （地域や関係機関との連携） ・ 流山市の人権擁護委員の方々が講師として授業をしてくださった。プレゼンテーションソフトを使って、児童の質問に答えながらわかりやすく話してくださった。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

千葉県

学校名

流山市立流山小学校

人権課題

ハンセン病患者

対象学年・
取り扱った教科等小学6年・総合的な
学習の時間

時数等

1 時間

目標・人権教
育のねらい

- ・ハンセン病について正しく理解し、差別をなくしていこうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・ハンセン病の歴史や差別を受けた人々の思いを知る（1時間）

工夫した点

（指導上の工夫）

- ・差別を受けた人々の気持ちを考え、差別をしないという思いにつなげられるようにする。

（地域や関係機関との連携）

- ・流山市の人権擁護委員の方々が講師として授業をしてくださった。プレゼンテーションソフトを使って、児童の質問に答えながらわかりやすく話してくださった。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	千葉県		学校名	流山市立流山小学校	
人権課題	北朝鮮当局による拉致問題	対象学年・ 取り扱った教科等	小学6年・総合的な 学習の時間	時数等	1 時間
目標・人権教育のねらい	・「めぐみ」の視聴を通して、家族がどんな思いしているかについて考え、拉致問題が重大な人権侵害だと理解する。				
実施した内容	・「めぐみ」を視聴し、拉致問題について考える。（1時間）				
工夫した点	（指導上の工夫） ・北朝鮮の人々がみんな「悪い人」ではないことを誤解のないようにしていく。 （地域や関係機関との連携） ・「政府拉致問題対策本部」が製作した「めぐみ」のDVDを視聴した。わかりやすいストーリーと構成になっていて、児童にも受け入れやすかった。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

- ・社会科では、憲法の基本的人権の考えを学習した際、総合的な学習と結びつけながら指導した。

事業成果

- ・知識的側面：「あなたは、いくつかの人権問題がどのようなものか知っていますか。」
「知っている」 事業開始時 : 62%⇒事業終了間際: 86%
【児童変容の分析】
人権タイムや授業を通して、自分の身近になかった人権課題についても
知ることができた。
- ・価値・態度的側面：「あなたは、自分の気持ちを大切にしていますか。」
「大切にしている」 事業開始時 : 79%⇒事業終了間際: 93%
【児童変容の分析】
特に、LGBTQの学習で外部講師を招いた講演会後のアンケートでは、自分らしく生
きることの大切さを感じた児童が多かった。
- ・技能的側面：「あなたは、困っている人がいたとき、何かしてあげられますか。」
「できる」 事業開始時 : 87%⇒事業終了間際: 95%
【児童変容の分析】
人権タイムや授業を通して、身近な人への思いやりの気持ちを持つことができた。